

高精度機械部品の製造設備導入などで 経営力の向上を実現へ

課題

顧客構成を見直して 事業の間口を広げたい

複合機など事務機器におけるデジタル化、高精細カラー化などの技術を支えるプラスチック射出成形機構部品を製造している光陽精工株式会社。創業者が光学機器メーカー勤務時代の縁から、大手事務機器メーカー向けに精密プラスチック部品の供給を開始したことが創業のきっかけだ。

大手メーカーとの堅固な信頼関係がある強みに加え、小ロット・短納期を実現する独自のカセット金型技術の導入や業務領域を広げるための協力工場のネットワーク化を進めるなど、経営状態は良好だ。しかし、大手メーカーからの受注が一極集中している顧客構成のため、将来的に安定した経営状況とはいきれない。

経営者は、事業の間口を広げるべく新規顧客開拓に奔走してきたが、大手メーカーに特化した従来技術だけでは参入障壁を崩すことが難しかった。

また、大手メーカーとの長年の安定取引が社内の危機感を薄めている要因のひとつだと感じていた経営者は、思い切った経営革新を進める必要があると考え、東村山市商工会に支援を求めた。

事業の間口を広げる事業計画を策定するためには、営業部門の参画が必須だと判断した商工会は、営業責任者を加えたチーム体制で課題を検討した。その結果、①高精度成形部品製造設備導入による新規事業の立ち上げ、②生産性向上による利益体質の強化、③情報発信の強化の3つについて具体的な支援を行うことになった。

支援

将来を見据えた新しい ものづくり体制を構築

新規事業の検討では、新設備の導入に必要な概略見積もりを取り寄せ、実際の受注見込みを予測して事業採算性について定量的な評価を行ったうえで、ロボット化による夜間製造の自動化や製造家屋の防塵化など、将来を見据えた新しいものづくりの体制を目指す計画支援も行った。

さらに、20台以上所有する成形機の稼働率の推移をあらためて見直してみたところ、小型部品の増加により中型成形機の稼働効率が低下している実態が明らかになったため、小型成形機を増設して、利益率の向上を目指した。



同社の製造現場

生産管理体制のシステム化も進めているが、これは現在、2カ所に分散している工場をIoTでつなぎ、最適な生産管理の実現を目指すものだ。商工会では、小ロット・多品種生産をリーズナブルなコストで実現するシステム構築や、ホームページの再構築も引き続き支援していく予定だ。

今後は高精度機構部品の製造設備の導入と製造技術の蓄積により、従来取引先での高精度部品の受注拡販や、新領域の高精度プラスチック成形品の拡販、新規顧客開拓を見込んでいる。

支援の経過

期間	支援内容
H28年7月	ヒアリング
H28年8月～10月	営業力の強化、経営資源の投資など
11月	事業計画の策定支援
H29年1月～2月	事業計画の実行支援

会社概要

会社名：光陽精工株式会社
 住所：東京都東村山市恩多町5-20-1
 電話番号：042-393-4112
 URL：http://www.tokyo-koyoseiko.co.jp
 代表者名：代表取締役 新井啓子
 創業年：昭和58年
 年間売上高：6億2000万円(平成27年)
 従業員数：17名
 商工会名・担当者名：東村山市商工会・石坂徳康